

社会人の林業技術者教育への取り組み

鹿児島大学農学部附属高隈演習林

◆私たちが社会人の林業技術者教育に参画して8年が経ちました。演習林の関わり方／在り方や実行体制を模索しながらも、試行段階から数えて12年目、今では外部諸団体から実施のリクエストをいただくようにもなった「新しい時代の林業親方」を育成するプログラムを紹介します。



◆名称：「林業生産専門技術者」養成プログラム (<http://acel.agri.kagoshima-u.ac.jp/ringyo/>)

目 標：安全と環境に配慮しつつ持続的な木材生産や林業経営を実行できる人材の養成。

対 象 者：素材生産業の現場リーダーとその候補者。近年では事業体経営者なども射程に。大学生も一部に参加。社会人との協働による学びの相互／相乗効果あり。

定 員：10名程度。これまでに169名が受講。離島や関東地方からの参加者も多数。

時 間 数：120時間（5科目（左図））。年1回開催。

特 典：履修証明書発行（特別の課程）、CPDポイント、国有林野事業入札の評価点など。

文科省の職業実践力育成プログラム(BP)に認定。

実施体制：鹿児島大学の社会人教育部局傘下の企画として実施。

森林科学系教員からなる実行委員会、実働部隊としての演習林。

九州森林管理局とは協定締結。鹿児島県、林業関係団体とは協力関係。

経 費：120万円程度。演習林負担（受講料（4万円）収入と、外部助成金の一部を活用。プログラム開発費・普及費等は別）。仕事量は技術職員の年間エフォートの6%。

1. 素材生産と再造林の課題
2. ICTを活用した林業経営と加工流通事情
3. 路網設計と作業システムの選択・評価
4. 施業集約化と事業体会計
5. 総合演習

◆事務局として認識している社会背景は左図のとおりです。今後は、社会情勢・大学・演習林・関係業界のそれぞれにとってこのプログラムが果たす役割／成果／課題を整理しつつ、林業人材の育成と、持続的な森林管理への一助となる取り組みを続けていきたいと考えています。

【記 芦原誠一】

背景と課題

